

経 歴 書

記 載 例

ふりがな 氏 名	ほっきょうだい たろう 北教大 太郎	生年月日（年齢）	昭和 ●年 ●月 ●日（●歳）	性別	⊙男 女
現 住 所	〒●●●●-●●●● 北海道札幌市北区あいの里5条3丁目1-3				
連絡先（自 宅） （携帯電話）	●●●●-●●-●●●● ●●●●-●●●●-●●●●	E-mail	●●●●●●@●●●●.●●.●●		
取得学位の種類（修士以上を記載）		取得年月日	授与機関		
修士（●●学）		平成●年●月●日	●●大学		
博士（●●学）		平成●年●月●日	●●大学		
学 歴（高卒以上の学歴を記載）					
平成●年●月	●●高等学校 卒業				
平成●年●月	●●大学 ●●学部 ●●学科 入学				
平成●年●月	●●大学 ●●学部 ●●学科 卒業				
平成●年●月	●●大学大学院 修士課程 ●●学専攻 入学				
平成●年●月	●●大学大学院 修士課程 ●●学専攻 修了				
平成●年●月	●●大学大学院 博士後期課程 ●●学専攻 入学				
平成●年●月	●●大学大学院 博士後期課程 ●●学専攻 修了				
職 歴（教育活動及び研究活動にかかる職歴を記載）					
平成●年●月	●●大学 ●●学部 ●●学科 非常勤講師（平成28年9月まで）				
平成●年●月	●●大学 ●●センター 研究員（平成31年3月まで）				
平成●年●月	●●大学 ●●学部 助教（令和2年3月まで）				

卒業（修了）だけでなく入学についても記載すること。

令和●年●月	同 講師（現在に至る）
年 月	
主な所属学会等会員・役職歴	
平成●年●月	●●学会会員（平成●年●月～●年●月 編集委員, 平成●年●月～●年●月 理事, 令和●年●月～現在 副会長）
平成●年●月	▲▲学会会員（平成●年●月～●年●月 評議員）
年 月	
年 月	
賞 罰	
平成●年●月	●●学会賞
年 月	
令和 ● 年 ● 月 ● 日	
上記のとおり相違ありません 氏 名 北教大 太郎	

記載上の留意事項

- (1) 日付については原則として和暦で記載すること。
- (2) 賞罰欄は、公的に入賞又は表彰された場合、刑事罰等（勤務先でのこれまで受けた懲戒処分も含む）を受けた場合に記載すること。賞罰に該当がない場合は、「賞罰」の次の行に「なし」と記載すること。
- (3) 経歴書に虚偽の事実を記載した場合は、採用又は昇任を取り消すことがあります。

令和●年●月●日		氏名 北教大 太郎			
著者名又は執筆者名	著書, 学術論文等の名称	発行所, 掲載雑誌等又は発表学会等の名称	発行・発表年月	頁数	備考
【著書】					
<u>北教大太郎</u> 北教大太郎(編著者)、●●、●● ●●(編集)、●●、 <u>北教大太郎</u> 、●●、●●、他15名	1. ●●研究法	●●出版	平成●年●月	総●頁(●頁～●頁)	
	2. ●●教育概説(●●叢書第●巻)、第1章「●●教育の課題」、第4章「●●教育の方法」を担当	●●書店	平成●年●月	総●●頁(第1章●頁～●頁、第4章●頁～●頁)	
	3. ●●に関する教育実践、第3章「●●の実践」を担当	●●社	令和●年●月予定(印刷中)	未定	
【学術論文】					
<u>北教大太郎</u> 北教大太郎 ●●小学校内研究会(●●、 <u>北教大太郎</u> 、●●、●●、その他12名) ●●、●●、 <u>北教大太郎</u>	1. ●●に対する教育プログラムの効果	●●研究、第26巻1号、●●学会	平成●月●月	●頁～●頁	レフリー論文 教育実践論文 博士論文 教育実践論文
	2. ●●に関する研究	●●大学	平成●年●月	総●頁	
	3. ●●における総合的な学習の時間の扱い	●●実践成果論文、●●教育委員会、第●号	平成●月●月	●頁～●頁	
	4. ●●に関する研究	●●大学研究紀要、第53巻第2号、●●大学	平成●年●月	●頁～●頁	

<p>●●, Taro HOKKYODAI, ●●</p> <p><u>北教大太郎</u>, ●●</p> <p>【学会発表・講演等】</p> <p><u>北教大太郎</u>, ●●、●●</p> <p><u>北教大太郎</u></p> <p>【その他（月刊誌・書評・報告集・コラム等）】</p> <p><u>北教大太郎</u></p> <p><u>北教大太郎</u></p> <p>●●、●●、<u>北教大太郎</u></p>	<p>5. Study of ●●</p> <p>6. ●●の学校教育における課題</p> <p>1. ●●の実践と課題</p> <p>2. ●●に関する実践研究法について(講演)</p> <p>1. ●●と教育</p> <p>2. ●●と幼児教育について(1)~(12)</p> <p>3. ●●に関する実践例</p>	<p>Journal of ●●, Vol.25, No.3, International Society of ●●</p> <p>●●と教育、第5巻2号、●●教育学会</p> <p>第●●回●●学会研究大会発表集、北海道教育大学(北海道)</p> <p>指導主事講習会、●●教育委員会主催</p> <p>●●教育論評、第30巻1号</p> <p>●●新聞朝刊コラム、「幼児教育」連載</p> <p>●●研究会平成●●年度実践報告集</p>	<p>平成●●年(西暦年)●●月</p> <p>令和●●年●●月予定</p> <p>平成●●年●●月</p> <p>平成●●年●●月</p> <p>平成●●年●●月</p> <p>平成●●年●●~●●月</p> <p>平成●●年●●月</p>	<p>●●頁~●●頁</p> <p>未定</p> <p>●●頁</p> <p>●●頁~●●頁</p> <p>約600字/回</p> <p>●●頁~●●頁</p>	<p>レフリー論文</p> <p>受理済 教育実践論文</p>
--	--	---	---	--	-------------------------------------

令和●年●月●日		氏名		北教大 太郎	
発表題目等	発表会等の名称	開催場所	発表年月	発表・展示等の内容	備 考
【演奏】 1. ピアノ三重奏曲第●番作品● 2. 組曲作品●●、●●、●● 3. 組曲「●●」より●● 4. ●●(CD等の名称を記載)	●●芸術祭●●演奏会、●●芸術祭実行委員会 教育太郎ピアノリサイタル 「第●回●●推薦コンサート」、●●新聞社、●●協会共催による優れた音楽家を推薦するコンサート CD、●●音楽出版	●●コンサートホール(大阪) ●●ホール(札幌) ●●ホール(東京)	平成●年●月 平成●年●月 平成●年●月 平成●年●月	ピアノ演奏(三重奏) ピアノ演奏(独奏) ピアノ演奏(独奏) 全10曲80分(曲目:●●、●●、●●、…、●●)	CD販売数平成●年●月現在●曲
【作品】 1. ●●(作品名等を記載) 2. ●●	●●年度●●国際芸術祭 第●回道展	●●ホール(神戸) ●●ギャラリー	平成●年●月 平成●年●月	●●における受賞(入選)作品の展示 ●●賞受賞	
【指導】					

1. 全日本●●連盟 ジュニア強化コーチ	平成●年●●競技会準優勝、平成●年●● 大会優勝	●●スポーツセン ター、●●体育館	平成●年～●年	ジュニア選手の育成・強化 コーチとして●●等を実践 し、全国クラスの成果をあ げた。
-------------------------	-----------------------------	----------------------	---------	---

研 究 業 績 書
 [競争的外部資金（科研費，財団など）]

記 載 例

No. 1

令和●年●月●日		氏名 北教大 太郎			
研究課題名等	研究種目等の名称	代表・分担等の区分	申請年度	研究期間	備 考
1. 「●●についての研究」	●●●●	代表	平成●年度	平成●年度～ 平成▲年度	採択
2. 「▲▲についての研究」	●●●●	代表	令和●年度	令和●年度～ 令和▲年度	

「研究業績書」記載上の留意事項

この業績書は、「著書、学術論文」，「学会発表・講演等」，「月刊誌・書評・報告集・コラム等」，「演奏・作品・出場競技等」及び「競争的外部資金」についての業績を記入するものである。

「著書、学術論文」等（別記様式第4-1号）

1. 発行済み又は掲載が予定されているすべての著書・学術論文等について作成すること。掲載予定のものについては、受理済みであることを備考欄に明記すること。
2. 昇任に係る書類作成の際は、現職採用等の際に提出した著書・学術論文等については、備考欄にその旨表示すること。
3. 国際的又は全国的な学会・機関等（これらに相当する学会・機関等を含む。）が刊行するレフリー制度の整った学術雑誌、学会誌、紀要等に審査を経て掲載された論文については、備考欄に「レフリー論文」と記入すること。
4. 「著者名又は執筆者名」欄には、共著の場合は、原則として本人の氏名を含め著者全員の氏名を当該著書等に記載された順に記入すること。ただし、著者の人数が10名を超える場合は、第1著者、編者その他主要な役割を果たした著者等及び本人の氏名を記入し、それ以外の著者については「他〇〇名」のように記入して差し支えない。なお、共著の場合で、本人が第1著者以外であっても、特に重要な役割を果たした場合は、備考欄にその旨記載すること。
5. 「著書、学術論文等の名称」の欄には、【著書】，【学術論文】，【学会発表・講演等】及び【その他（月刊誌・書評・報告集・コラム等）】の順に、それぞれ年月順に記入し、それぞれに通し番号を付すこと。
6. 「頁数」の欄には、著書のうち単著は総頁数を、共著は総頁数と併せて本人執筆部分の頁数を記入する。学術論文の場合は〇〇頁～〇〇頁と記入すること。
7. 【学会発表・講演等】は、最近5年間の業績を記入すること。
8. 【その他（月刊誌・書評・報告集・コラム等）】は、最近5年間の業績を記入すること。
9. 主要学術論文等の概要を添付すること。
10. 著書とは、学術図書、翻訳書、指導書、学習指導資料及び教科用図書等をいう。
11. 学術論文とは、学会・機関等の刊行する学術雑誌、学会誌、紀要等に掲載されたものをいい、その内容は、所属学会等の水準を保つものとする。
12. 昇任に係る書類作成の際は、教育に関する学術論文については、備考欄に「教育に関する学術論文」と記入すること。
13. 「教育実践に貢献する論文（研究成果が、学校（学校教育法第1条に規定する学校をいう。）における教育実践に貢献する内容、又は広く教育活動に生かされる内容を有している論文をいう。）」を有する場合は、論文の概要を添付すること。（当該論文を4編以上有する場合は、それらのうち4編の論文の概要を添付すること。）

「演奏・作品・出場競技等」（別記様式第4-2号）

実技系芸術分野及び体育分野で以下の業績がある者は、提出すること。

1. 記載方法は、上記1～6を参照すること。
2. 演奏とは、国際的又は全国的なレベルのコンクール等への出場等
3. 作品とは、国際的又は全国的なレベルの展覧会における入選・受賞作品等
4. 出場競技とは、国際的又は全国的な公認競技会への出場・入賞
5. 実技系芸術分野にあっては、2. 3. の催しの審査員やその企画等の実績を、体育分野にあっては、4. の競技会での審判・指導等の実績を研究業績とすることがで

きる。

「競争的外部資金」（別記様式第4－3号）

1. 最近5年間の申請状況を記載し、採択されたものについては、備考欄にその旨明記すること。
2. 最近5年間に申請実績が無い場合は、「無し」と記載し提出すること。

～ “「研究業績書」記載上の留意事項” に関する付記事項～

「著書，学術論文」等（別記様式第4号の1）

1. について，掲載予定で受理済みである場合は，論文受理証明書等を添付してください。
3. の「レフリー論文」について，審査委員会の判断によっては，掲載誌の投稿規定等の提出を依頼する場合があります。
4. について，本人の氏名にはアンダーラインを引いてください。
5. について，「年月順」とは古いものから順に記載してください。

※「発行所，掲載雑誌等又は発表学会等の名称」欄には，発行学会等名又は出版元及び掲載雑誌等名（巻号等を含む）を記載してください。

※別添の「研究業績書」記載例を参照してください。

別記様式第5号（第11条関係）

主要担当予定科目の授業計画

年 月 日

氏名

授 業 科 目	
授 業 概 要	<ul style="list-style-type: none"> ◆「授業の内容」及び「授業の目標」を記載すること。 ◆「授業の内容」は、「何を学ぶのか」という授業概要を記載するものとし、「授業の目標」は、「何の力をつけるのか」といった一般目標を学生中心の表現で記載すること。 ※ 一般目標とは科目の必要性、目標が達成された場合の成果などをいう。
到 達 目 標	<ul style="list-style-type: none"> ◆到達目標を具体的に記載すること。一つの項目に一つの目標とし、学生を主語に記載すること。 ◆ここで記載した内容は、「成績評価」と密接に関係するので、具体的で到達度が測定可能な目標とすること。
授 業 計 画	<ul style="list-style-type: none"> ◆15週（教職大学院の授業科目にあつては8週）にわたり授業の順にしたがって授業計画を記載すること。
成 績 評 価	<ul style="list-style-type: none"> ◆到達目標がどの程度達成されたかを測る方法と基準を示すこと。 ◆欠席した場合の取扱いを記載すること。
テ キ ス ト	<ul style="list-style-type: none"> ◆テキストに関する情報を必ず記載すること。
参 考 文 献	<ul style="list-style-type: none"> ◆参考文献に関する情報を必ず記載すること。

記載上の留意事項

本学のシラバスを参考にして記載すること。

※参考URL https://huelc-eis.hokkyodai.ac.jp/lcu-web/SC_06001B00_21

実務実績書

No.

年 月 日 氏名							
番号	企画・プロジェクト 等名	企画・プロジェクト 等の主体	自身の役割	企画・プロジェクト 等の実施場所	実施期間	報告書等名 (発行年月, 頁数)	備 考
		概 要 ・ 成 果					

記載上の留意事項

1. 日付については原則として和暦で記載すること。
2. 実務実績とは、次のものをいう。
 - (1) 国際地域学科地域協働専攻（函館校）
採用時の選考又は昇任候補者の対象分野に係る国際的又は地域的な優れた企画等の立案・実施に関する報告書等の実績をいう。
 - (2) 芸術・スポーツ文化学科（岩見沢校）
国際的若しくは全国的なレベルの優れた業績と認められる企画、プロジェクト等の実績をいう。
3. これまでに自身が関わった企画・プロジェクト等の実績について記載すること。
4. 「企画・プロジェクト等の主体」欄には、企画・プロジェクト等（以下「プロジェクト等」とする。）を実施した主体である組織や地方公共団体等の名称を記載すること。
5. 「自身の役割」欄には、当該プロジェクト等に対して自身が果たした役割を簡潔に記載すること。なお、役割について特記事項がある場合には、「概要・成果」欄に補足すること。また、役割を示す関連資料等がある場合には添付すること。（ただし、報告書等に示されている場合は省略してよい。）
6. 「報告書等名」欄には、当該プロジェクト等において作成した報告書等の名称、発行年月、総頁数を記載すること。なお、自身の担当部分について抽出できる場合には、担当部分の開始頁及び終了頁を併せて記載し、抽出できな

い場合には「本人担当部分抽出不可」と記載すること。

（実務実績が2（2）に該当する場合は、記載を要しない。）

7. 1つのプロジェクト等において、複数の報告書等が発行されている場合は、報告書等毎に「企画・プロジェクト等名」欄を分けて記載すること。
8. 「概要・成果」欄には、当該プロジェクト等が応募するキャンパスにおける上記2の実務実績に合致することを念頭に、200字以内で記載すること。

令和●年●月●日								氏名		北教大 太郎	
番号	企画・プロジェクト等名	企画・プロジェクト等の主体	自身の役割	企画・プロジェクト等の実施場所	実施期間	報告書等名 (発行年月, 頁数)	備考				
1	●●●●展	主催 ●●県 後援 ●●省 協力 ●●	●●●●展プロジェクト実行委員会●●委員(●●担当)	●●ホール(●●県●●市)	令和●年●月	●●●●展プロジェクト報告書(令和●年●月, 総10頁, 本人担当分3~5頁)					
		概要・成果	●●●●展プロジェクト実行委員会の●●委員として, ●●担当として活動した。●●展には計●●名が入場し, ●●●●に関する啓発といった目的が達成された。								
2	●●●●交流会	主催 ●●市 協賛 ●●会社, ●● 町 後援 ●●県	●●市●●交流会実行委員会委員(主に●●担当)	●●市●●センター	令和●年●月	●●●●交流会活動報告(令和●年●月, 総5頁, 本人担当部分抽出不可)					
		概要・成果	●●市●●交流会実行委員会委員として●●の面からサポートし, 実施期間中は●日間で●名が参加し, 参加者によるアンケートでは9割が有意義な企画であるとの回答であり, その結果, 第2回目の開催が決定し, 実行委員会委員として準備を進めているところである。								
		概要・成果									

		概要・成果					

令和●年●月●日

氏名

北教大 太郎

No.

1

職務実績の概要

●●大学講師, ▲▲専門学校非常勤講師及び■ ■大学非常勤講師

時期・所属・職名・担当業務内容等

1. 平成●年●月～●年●月 ●●大学 講師 「●●(科目名)」
2. 平成▲年▲月～▲年▲月 ▲▲専門学校 非常勤講師 「▲▲(科目名)」
3. 令和■年■月～■年■月 ■ ■大学 非常勤講師 「■ ■(科目名)」

職務実績の具体的な内容

1. 「●●(科目名)」を担当。受講者数●名。
●●といった工夫をし、学生による授業評価において●●といった評価を得た。
2. 「▲▲(科目名)」を担当。受講者数●名。
学生の理解促進のため▲▲に取り組んだ結果、授業評価が学内で●●という結果であった。
3. 「■ ■(科目名)」を担当。受講者数●名。
受講生の理解度を深めるため、毎回の講義についてのレポートを課すなどした。

記載例のように、別の実績を1枚にまとめて可。

公募内容との関連について

専門分野に関わりのある講義を担当している
など、公募内容との関連について容易に推測
できる場合は、記載不要。

記載上の留意事項

1. 日付については原則として和暦で記載すること。
2. 採用時に作成する場合
 - (1) 公募内容に関連する以下の職務実績のうち、優れた実績を記載すること。
 - ア 大学・学校等における教育改善に係る実績
 - イ 学校等との協働による教育実践の実績
 - ウ 教育活動、研究活動又は学会・学術団体での活動その他の職務実績
 - (2) 優れた実績がない場合は、「無し」と記載すること。
 - (3) 「職務実績の具体的な内容」が、公募内容との関連について容易に推測できる場合は、「公募内容との関連について」は記載を省略して差し支えない。
 - (4) 職務実績のうち、管理運営的な内容については、(管理運営面)の様式に記載すること。
3. 昇任時に作成する場合
 - (1) 本学在職後(特に現職就任後)における2.(1)の内容を記載すること。
 - (2) 「公募内容との関連について」は記載不要とする。

記載例

令和●年●月●日

氏名

北教大 太郎

No. 1

管理運営実績の概要
●●大学における実習に関する運営, 調整及び入学試験に関する業務
時期・所属・職名・担当業務内容 等
平成●年●月～●年●月 ●●大学 実習委員会委員 平成▲年▲月～▲年▲月 ●●大学 入試委員会委員
管理運営実績の具体的な内容
1. ●●大学において以下の委員会委員等を担当 平成●年●月～●年●月 実習委員会委員 (・・・主な活動内容) 平成▲年▲月～▲年▲月 入試委員会委員 (・・・主な活動内容) . . .

記載上の留意事項

1. 日付については原則として和暦で記載すること。
2. 採用時に作成する場合
 - (1) 以下の管理運営実績のうち, 最近5年以内における実績を記載すること。
 - ア 大学・学校等における管理運営に関する実績
 - イ その他公募内容に関連する実績
 - (2) 記載する管理運営実績がない場合は, 「無し」と記載すること。
3. 昇任時に作成する場合
 - (1) 全学又は所属する各校等で従事した委員会名及び期間を記載すること。
 - (2) 委員会における役割及び活動状況を記載すること。
 - (3) 本学の教員として特記すべき事項があれば記載すること。

令和●年●月●日

氏名

北教大 太郎

No. 1

社会貢献実績の概要
1. ▲▲県教育委員会 ▲▲審議会委員 2. ■■学校 P T A向け「■■■■」講演会講師
時期・所属・職名・担当業務内容 等
1. 平成▲年▲月～▲年▲月 ▲▲県教育委員会 ▲▲審議会委員 2. 平成■年■月～■年■月 ■■学校 「■■■■」講演会講師
社会貢献実績の具体的な内容
1. ▲▲県教育委員会において、▲▲審議会委員として▲▲に関する業務を担当し、▲～▲年度の県の教育方針の原案作成に協力し、成果を上げた。 2. ■■学校のP T Aを対象とした「■■■■」に関する講演を行い、子どもの健全な育成方法の具体について情報の共有機会を提供し、高い評価を得た。(アンケート調査による評価点 4.5/5点満点)
公募内容との関連について
●●学領域の観点から、研究成果を活かして教育方針の策定及びP T A向けの講演について貢献することができた。

記載上の留意事項

- 日付については原則として和暦で記載すること。
- 以下の社会貢献実績のうち、最近5年間における実績を記載すること。
 - 学外の審議会・委員会等での活動(名称, 役割, 任期等)
 - 生涯学習等に係る活動(社会教育団体等の委員, 講師などの活動内容)
 - その他の社会的活動(基調講演, 招待講演等, 受賞等)
 - 地域連携事業(公開講座, 教員免許状更新講習等)

※ 昇任時の作成の際は、「本学における地域連携事業」とする。
- 記載する実績がない場合は、「無し」と記載すること。